

財務諸表論の学習内容

1. 財務諸表論科目の内容

財務諸表論は、外部公表用の財務諸表を作成する基礎となる考え方（理論）及び作成の方法・手続（計算）を学ぶ科目です。本TLTソフトは簿記・会計の知識が一定程度ある方を対象としています。

理論に関しては、企業会計原則を中心とした会計制度及び会計理論の理解・記憶が必要となります。

計算に関しては、会計諸規則に基づいて財務諸表を作成することを要求されるため、会計諸規則の理解・記憶、それに基づく計算、事務処理能力が必要となります。

2. 本試験（計算編）の出題内容

税理士試験・財務諸表論（計算編）では、総合計算問題が出題されています。この総合計算問題は、基本的な個別計算問題の集積であり、基本的な個別論点を広く押さえていけば、十分な合格点を取れるような出題内容となっています。したがって、個別問題を広く学習するとともに、総合問題への対処方法を学ぶ必要があります。

TLTソフトでは、個別問題の知識、解法及び総合問題の対処方法を学んで、十分な合格点を取れるように、具体的には、3で述べるような出題をしています。

3. 計算編 TLTソフトの出題の内容

財務諸表論・計算編では、財務諸表論の個別の論点を学習する個別問題（以下、個別演習といいます）を複数のセクションに分けて学習し、最後に個別論点相互の理解を前提とした総合問題の解き方（以下、総合演習といいます）を中心に学習していきます。なお、本ソフトは新会社法に対応して作成しています。

計算編では、個別演習の各セクションにおいて、問題を解く前提となる知識、公式を学習する段階の「知識編」と、この基礎知識を記憶、理解して各セクションに属する個別テーマの具体的な計算問題を解いていく段階の「演習編」の二段階を経て学習していきます（なお、総合演習では、「知識編」はなく、「演習編」のみです。）

全体は各セクションごとで複数のテーマに分けられています。どのテーマでも重要基本論点を押さえることができ、これだけ学習すればその学習範囲に関しては税理士試験で十分合格点をとれるように必要な問題群が用意されています。

「知識編」では計算問題を解く上で必要な知識を、各テーマを細分化した具体的論点別に画面ごとに「設問文と解答」の構成にして整理し記憶していきます。

「演習編」では具体的な計算問題をもとに、最終的な答そのものを直接答えていくことはせず、資料の読み方やその解法を「解答に至るまでの考え方の道筋」として徹底的に理解・記憶できるように演習します。「知識編」で学習した具体的論点の知識の記憶、理解を具体的な計算問題の中で確認し、使いこなせるように徹底的に演習します。

学習の流れ

学習は「学習区分／学習内容指定画面」からスタートします。

この画面の左端の列に学習内容が複数に区分されたセクション（学習しやすいように細分化された学習内容）が並んでいます。セクションは上から学習順（基本から応用まで）に配列してありますが、どのセクションからでも学習できます。

各セクションごとに「初回」「復習」「総チェック」の3段階を終了しなければなりません。

この3段階は、次のように構成されています。

- ・「初回」＝一番初めに行う学習で、問題として表示される学習内容を読んで理解した上で、穴埋めをしながら学習内容を記憶していきます。そのセクションの問題について一通り穴埋めし終えると、それまでに穴埋めで間違った問題だけ表示されトレーニングに入ります。間違った問題は2度連続して正答できるまで繰り返し表示されます。こうして、そのセクションの問題を完全に正答できると、マスターできたとしてそのセクションは二度と行うことはできません。（総チェックでは行うことができます）
- ・「復習」＝「初回」で間違った問題を再度完全に正答できるまで、繰り返し穴埋めしながら学習内容を記憶していきます（「初回」のトレーニングの部分を「復習」で行う訳です）。そのセクションの問題を完全に正答できると、マスターできたとしてそのセクションは二度と行うことはできません。（総チェックで行うことができます）
- ・「総チェック」＝「初回」「復習」でその学習内容を完全にマスターしても時の経過とともに記憶は薄れがちです。ここでは「初回」と同じくそのセクションの内容を再度穴埋めしながら記憶していくことができます。ただし、「初回」と異なり、間違った問題だけをトレーニングすることは行いません。この段階では、基本的に学習内容をマスターされているレベルにあるはずだからです。

ここでは、確実に覚えていただくために、すべて正答できないと終了しません。

そのセクションの問題を完全に正答できると、そのセクションの内容は完全にマスターできたとして、そのセクションについて「修了」が表示されます。

すべてのセクションについて合格が表示されると、合格番号が表示されます。

「総チェック」では「修了」が表示された学習区分については、この後何度でも学習することができます。「総チェック」では確実に覚えていただくために、「修了」するまでは6画面の単位で全て連続して正解しないと、再度この6画面の学習が繰り返される方式を採っています。6画面単位の学習途中で中断すると、再開時は中断した単位の初めからの学習になります。また、「総チェック」では全ての問題を連続して正解して正解していただく必要がございます。不正解が1問でもあった場合には、再度最初から学習になります。

計算編では理論編と異なり、「初回」「復習」「総チェック」とも次の内容に分かれています。

- ・「知識編」＝計算問題を解く上で直接的に必要な知識事項を徹底的に記憶します。設問文を読んで、その解答としての知識事項を穴埋めをしていく方式です。
- ・「演習編」＝計算問題に対してその考え方・解き方・立式のしかたを「解答に至るまでの考え方の道筋」として徹底的にマスターします。設問文を読んで、まず解答します。解答文や式展開を穴埋めにより行います。その上で考え方やポイントを解説で穴埋めしながら理解・記憶します。最終的な四則演算そのものは本ソフトでは行いません。あくまで解法のしかたを効率的に学習するためです（等式では原則として左辺を穴埋めします）。

また、「演習編」の設問文は学習画面を効率的に使用するため、冊子として用意してあります。冊子の設問文を読んだ上で画面に表示された解答・解説の画面学習を行う方式です。

「初回」から「総チェック」までは、1つのセクションの「知識編」の学習の途中でもそのセクションの「演習編」の学習を行うことができます。「知識編」の一定程度の学習の後すぐに「演習編」の計算問題当たることができるようにしています。

解答のしかた

学習画面は設問文とこれに対応する解答・解説文（「知識編」では、解説はつきません。また、「演習編」でもとくに必要ない場合には解説が見つからないこともあります）で構成され、設問文に対する解答文と解説文を穴埋めしながら理解・記憶していきます。1問が1画面でできています。

穴には解答文・解説文のとおりの内容を埋めていきます。内容的に順不同であっても解答文・解説文にある順で穴埋めします。これは解答文をまるごと暗記・理解ようにしているからです。

穴埋めは解答の「読み」の頭文字1文字をローマ字で入力することで正答か誤答かを判定します（「読み」は原則として通常使用する一般的な読みを採用しています）。

ただし、算用数字（例：523）や英字（例：AB）数式は全文字を入力します。英字は解答文・解説文で大文字であれば大文字で入力します。なお、算用数字の場合カンマ（例：5,120）の入力は不要です（正しい位置に入力されれば、カンマを含めた入力をしてしても正答になります）。

なお、用語等で漢数字を使用している場合があります。この場合は漢数字としての読みの頭文字を入力します。

数式での次の演算記号等はキーボード上にあるキーを入力しますが、×（かける）についてはキーボード上の*（アスタリスク）を入力します（画面表示では「×」となります）。また、大かっこは〔 〕の表示であっても入力はキーボード上にある[や] のキーを使用します。

なお、 π 、 e 、 ∞ 等の は表示はされますが、入力することはありません。

演算記号	+	-	×	/	.	=	<	>	()	{ }	[]
内容	たす	ひく	かける	わる	小数点 (ピリオド)	等号	不等号	不等号	小	中	大
									かっこ類（上欄では2文字を いっしょに示しています）		

正答した場合は青で表示され、次の穴にカーソルを移動します。

誤入力した場合は入力文字がそのまま残り、Delete キーで消して再度入力し直すこともできます。Delete キーでなく Enter キーを押した場合には誤答したとして正答が赤で表示されます。

解答がわからない場合は「ギブアップ・キー（F6 キー）」を押してください。この場合も誤答したとして正答が赤で表示されます。

注：入力ミス等に備えて誤答した直後「F5 キー」で正答したことにすることもできます。

（1つのセクションについて5回しか使用できません）

逆に、正答しても「自分が怪しい解答をした」と思えば「F5 キー」で正答を誤答に直すこともできます。（これは回数の制限はありません）

学習画面の問題について

重要度

計算編では全て徹底的に覚える必要があるものですので、あえて理論編のような重要度はつけてありません。

過去問の明示

過去問を流用した場合には、「平成20年」のように過去問の出題年を明示してあります。

財務諸表論（計算編）の学習構成

配布順	種別	セクション	大問		
第 1 回	計算編	1．会社計算規則に基づく様式・注記	1 様式		
			2 注記		
			2．重要基本項目	1 現金預金	
		2 金銭債権			
		3 有価証券			
		4 棚卸資産			
		5 有形固定資産			
		6 無形固定資産			
		7 繰延資産			
		8 金銭債務			
		9 引当金			
		10 社債			
		11 経過勘定			
		12 税金			
		13 純資産の部の会計			
		3．特殊計算項目	1 外貨換算会計		
			2 売価還元法		
			3 退職給付会計		
			4 税効果会計		
			5 剰余金分配可能限度額		
			6 自己株式		
			7 研究開発費・ソフトウェア会計		
			8 新株予約件付社債		
			9 リース会計		
			10 先物・オプション		
		第 2 回	計算編	4．特殊計算項目	1 製造業会計
					2 建設業会計
3 本支店会計					
4 本社工場会計					
5 企業結合会計					
5．特殊計算項目	1 会社法の開示制度				
	2 公告				
	3 株主資本等変動計算書				
	4 附属明細書				
	5 事業報告				
	6 財務諸表等規則と会社計算規則				
	7 キャッシュ・フロー計算書				
6．総合問題	1 平成13年度				
	2 平成14年度				

	7 . 総合問題	1 平成 1 5 年度
		2 平成 1 6 年度
	8 . 総合問題	1 平成 1 7 年度
		2 平成 1 8 年度
	9 . 総合問題	1 平成 1 9 年度
		2 平成 2 0 年度